

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。黒岩幸生でございます。

実は、私、今回若い人に道を譲るということで（笑い声）来期は出馬しないという意向を固めたところでございます。振り返ってみますと、今から39年前、昭和50年に初当選いたしましたわけでございますけれども、以来10回の選挙戦を戦ってまいりました。29歳で議員になったときに、北方町議会を見てみますと、当時川原議員のお父さん、それから亡くなられた伊藤元康さんのお父さんが、議長をされておりました。そして私を、今日をつくっていただいた、山口猛義議員さんておられましたけれども、この三方が北方町の重鎮でございました。いずれも、50代の半ばでございました。前半でございました。そのとき29歳から見た北方町議会でございますけれども、やはり議員の定年っていうのは、まあ65ぐらいかな、いう感じはしておりましたのでこー、二年それをつぶさに思いますので、今回、引退するという決意をしたところでございます。

昨日、市長さんは65歳は若いという話をなされておりましたけれども、それは市長がよく言う上から目線ですね。（笑い声）29歳から見たときには、やはり65なんですね。それは今も39年前も変わらないと思っております。そういうことで、引退をいたしたいと思えます。そういうことでございますので、今回はこれまでのいろんな思い、まあ特に武雄市は多いんですけれども、そういう思いをですね、振り返りながら提言といいますか、質問という形にしていきたいと思えますので、重複する点、市長さん、かなりあると思えますけれども、よろしく願いいたします。

私の最初の質問は先日といいますか——もう3年になるんですね、3年。間もなく3年です。東日本大震災によりまして、紙文書が流出したということから、市長はいち早く公文書の電子化ということを打ち出されましたけれども、現在、その進捗状況はどのようになっているのか、まず最初の質問とするところでございます。よろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

おはようございます。

行政文書の、PDF化の進捗状況ということでございます。現在のところ武雄市役所内の公文書の全体の総量、これを1,700万枚程度ということで推計をいたしております。

今回は、このうち平成24年度に作成された公文書、この1年間で約100万枚程度の文書だろうというふうに推計をしておりますが、この文書を対象に、庁内でスキニングの作業をしているところであります。3カ月かかりまして、スキャンができたのが約5万枚。つまり、1年間かかってこのペースでいきますと、20万枚。5分の1のスキャンの量になるということで、なかなか進捗状況については遅れているという状況でございます。こういう状況から、

現在、機械が6台しかございませんので、そういうスピードになっておりますので、機器を増強しましてさらにスピードアップを図っていききたいとこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

やはり電子化するためには、政府を電子化というようにですね、まず基礎でございますので、いつときも早いですね——もう福島も3年目になるということもございますので、これいつときも早くですね、災害いつ来るかわかりませんし、これから大事なことでするので頑張っていたきたいと思います。

ただいまから、2014年の武雄市議会3月定例会の一般質問を、始めたいと思います。これ昔は、御船山と言えば武雄市だったんですけど、今、自分のとって感じしますね。

議員としては最後、住民の代表としての一般質問を、行いたいと思います。私は今回3件について質問を出しております。第1点目が、世界一優秀な新日鉄溶融炉の運転について。2つ目はパッセル。これは山崎さんが持つ特許でございますけれども、これを利用した世界初、これも初ですね、総合窓口システムづくりについて。そして3番目は、議会活動から見た諸問題。これは道路問題でございますけれども、3点について質問を通告をいたしておりました。しかし昨日の一般質問で、平野議員さんと樋渡市長さんの話の中で、事務の合理化は賛成だっちゅう言葉と、それからまた市長は、民営化することで活性化につながる、言葉がございましたので、この順序を入れかえてですね、入れかえて1番目にパッセルを利用した世界初の総合窓口づくり、それから2番目に世界一優秀な新日鉄溶融炉について質問をしてまいりたいと思います。

まず最初に、24年も言いましたけれども、行政と民間企業のあり方、これをまず整理しておきたいと思うんですね。きのうも、あっておりましたけれども、私たちIT行政推進特別委員会で、沖縄県のIT津梁パークへ行って、勉強させていただきました。それは沖縄県と企業が、民間団体と一緒にですね、つくっておられたんですね。これが、沖縄県のIT津梁パークでございます。この中ではですね、敷地が20ヘクタールちゃんと用意してあるんですね。これは会議室ですけれども、特にITを推進しようと、後で問題言いますけど、質問しますけども、ITを中心としてですね、こういう会議室いっぱい設けてある。これは理由は後で言いますけれども、これは委員会のメンバーですが、ここですけれども、つまり沖縄県と民間事業者と一緒にですね、そして、IT企業を育てようという発想なんですね。育てるより誘致するちゅう考え方ですね、それに民間施設のイメージをつくっておられました。こういうところで呼び込むちゅう考え方ですけども、これが上手に回ってこそ、初めて誘致企業ができるちゅう発想なんですね。

私はここに24年の3月定例議会で、ここで質問したことでですけども、仕事と発明、発想

を一緒にして、これだけでは足らん。さらにここに外部的支援。これがなければ、起業——起こす業ですね。起業が育たないという話を、ここでしました。これが上手に回って、初めて起業が生まれる。武雄市から生まれるという話をしましたけれども、つまり行政に、さらにですね、さらに行政に自然科学のね、つまり機械的とか、いろんなことを入れていく発想をこう3年ずっとしております。質問しております。

仕事実務。これは市役所の仕事ですね、市役所ですね。それから発想は、創意。これは市議会で今やってきております、いろんな提言をしてきております。そして大事なものは、起業で大事なものは、組織的支援がなければできないちゅうことなんですね。

今回、この発明・開発については3年前から言ってるのが、パッセルなんですね。パッセル。これはデイソフトの山崎社長が日本とアメリカで特許を取られたものなんですね。これを使って——これ3年質問してますけど——これを使って、行政部門をなんとかしていこうって話をしておりました。それに外部的支援ですけども、今ユニシスさんがこのことについて、注目をしてるって話を聞いたところですね、ユニシスさんが。そこでお伺いですけども、外部からの支援を感じた。私もそう思っておりますけども、このことに対して、どのように思われるか質問いたします。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、温かい視線を感じてるんですけどね。あれなんですよ、CCCとカルチュア・コンビニエンス・クラブと図書館ってということで、もう完全に、官民連携ではなくてね、もう一緒になってこうやってると。もうチーム武雄となって、こうやってるっていう姿がもう出てきていて、こういう姿であれば、例えばユニシスさんの話が出ました。ここでは言えませんが、今さまざまな企業の皆さんであるとか、財団の皆さんたちが武雄市とパートナーとして仕事をしたい、だけどきのうの宮本栄八さんの質問でね、やっぱり業者とか言いんさあわけですよ。仕事ばせんばとか。そいぎですね、やっぱりどんびきしんさあわけですね。そいけんが、こと——宮本議員、ちょっといいですか。私、答弁してますよ——ですので、そういうだから、まあ3歩進んでまた3歩下がるかなという感じですけど、ただ武雄市が、物すごく注目されてるのは事実ですので、特にこのIT特別委員会が、やっぱり注目されてるんですね。ですので、その観点からすると、武雄市がこう合併したときからくると、もう隔世の感があるなっていうのは、認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

つまり大事なことは、民間企業と自治体のあり方なんですね。基本的な考え方はもちろん、

これはあくまでですね、官は民の補完的役割でなければならない。これ原則ですね。さらには、官業は民業を圧迫しない。これも原則なんですよ。

しかし、民を育てるのも官の仕事で、これを忘れたらいかんですよ。これ沖縄行って、つくづく思ったんですけれども。沖縄 I T 津梁パークではですね——沖縄で誘致企業ったら何がくると思うですか。製造業来ませんよね。そこで考えられてるのが、I T 産業の醸成なんです。辞書引いたらわかりますけれども、醸成というのは、気運、雰囲気などを自然につくり出すことなんです。会議室。こう言われました。ぜひ I T の会議をうちでしてください。沖縄は気候がいいですよ。呼び込みなんです。醸成っちゅ言葉を使っておられました。そこで I T 企業の育成、教育、つまり大事なところ、ここですけれども、起業、起こす業の支援なんです。企てる業の支援ではなくて、起こす業の支援が必要になってくるんです。

武雄市のレモングラスへの支援、これずっと見ておりましたけれども、やはりこれも醸成をされたって思うんです。市が一生懸命頑張って、引っ張って行ってそして手渡す。これが大事ですけれども、まあ当初 1 兆円産業までいかなかったですね。(笑い声) しかしですね、山内の Lemongrass Tea House といって、きれいにつくってあった。コーヒー飲んできましたけどですね。しかしあの時点で、どんなに発展していくかわからん。レモングラスで、それこそ 1 兆円産業なったかもわからんです。しかし確実に、芽を吹いたのも事実なんです。

北方町で、夕市問題ってあるんです。小池議員覚えとるですかね。夕市をつくりたいということで、ある議員さんの奥さんが陳情に来られたんです。屋根をつけるけんが、錢ばくれんですかって話。つまり、朝市じゃなくて夕市ですけども、これ農協、北方支所ですね農協の、そこの前につくっておられました。そしたら、議員の中でけんけんがくがくがありまして、一企業に金出すっておかしかりょうもんで話ですね。まあいろいろありました。そのとき私が言ったのは、笑いながら言ったんです。たかが二、三十万出してもよかりょうもんで。そのことによって、市民の皆さんが便利になるし——町民ですね——なるし、そしてまたそれが大きくなって税金を払うことになれば、これにこしたことなかりょうもんで話を、結果的に全会一致でですね、補助金出すことになった。それは雇用の確保と税収アップなんです。という考え方が大事だと思うんです。大事なことは、どこまで支援するかっていうことをございますけれども、起業、起こす業ですよ、育成の手助け、醸成。民間企業との距離感は、必要ですね。市長はこのことに対して、どのようにお考えか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

レモングラスを例えて言いますとね——私は、もう 7 年前の一般質問におきましてね、当

時の明治政府の例を出して、官営八幡製鉄所、官営八幡製鉄所ですね、あれちょっと統計の取り方によって数字が違うんですけども、当時の国家予算の10分の1から4分の1ぐらい出してんですよ。国が100%支出してね。それで一本立ちしてから、今の新日鉄さんに、五代友厚さんっていう薩摩の政商の方にね、もうほとんどただ同然で売却して、その時点で大きく芽がばーんってまた出たんですよ。だから種をまいて——まあレモングラスに例えていうと、種をまいてこう苗になって、少し芽が出た時点で、これは伸びていくぞといった時点で、やはりこれは民間にお渡しするのが、私は筋だと思っていて、なぜ武雄市の、今レモングラスが——まあいろんなところから注目をされていますけれど、それはいいタイミングで、民間の方々にやっぱりこうお渡しをしたと、そこから、次は民間のね、競争環境の中に置かれてやっぱり伸ばしていくと。これね、もし、私たちが議会の——まあ、あの当時もね、もう宮本議員さんとか、吉原議員さんとか（発言する者あり）さんざんな批判がありましたよ、さんざんな批判が。

ですがその中で、もし我々はその批判に負けてやってなかったら、今のレモングラスってないわけですよ。そこをぜひね、御理解をしていただきたいなと思ってますので。やはり、一定程度成長した時点でね、これはもう民間にお渡しするのが筋だというように認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

よく勘違いが——まあ市長はいいんですけども——あるのはですね。官は何でもできるちゅ考え方からですね、抱え過ぎ。当初はいいもんで抱えとって、みんな武士の商法でですね、つぶしていく。これ多いんですね。だから、ある程度育てるまでは、どうしても民間の力がないときには、官がしてやる。しかし、その後はですね、民でばーんと伸ばすという発想こそ必要だと思いますので、よろしくお願いします。

実は、あのBITS in九州、1月23日にホテル福岡でございましたホテルオークラに行って参り、ここのセッションに参加したんですね。このテーマといたしまして、異業種だから成功する共創ビジネス、あるいはまた、“つなぐ力”でビジネスを変えるというセッションがございました。

ここには、日本ユニシス株式会社の社長さんが見えて、あいさつされたんですね。中央に大きなモニターがありましたので、おそらくモニターで、出られるのかなと思ったら、本人が来てあいさつされたんですね。びっくりしました。それは資本金54億円を超える、あるいは従業員4,000名を超える、そんな大きなところなんですね。そして三井業際研究所の会員でもあられます。2年前でしたかね、ここに三井業際が来られましたけども、三井業際研究所というのは、目的は、三井グループにおいて、異業種間との業際分野における、知識集団とし

ての機能を果たすことってということなんですね。これで来られました。

そこで今回はですね、ユニシスのパートナービジョンちゅうことを打ち出されておりました。それは情報技術、ITですね。ITの最適な状態を提供しよう、ITを活用した事業を支援していこう、あるいはまたITを活用し、社会基盤の提供をしていこうっていう話をなされておりました。そしてまた同時にですね、総務省がオープンデータの推進のためのデータカタログのあり方に関する調査ちゅうことを出す。入札出されて、ここに先ほどいいました、デイソフトの山崎耕史社長、あるいはユニシスさんの方も一緒です。合同にしてですね、こういうこと出されたんですね。小規模な自治体のためには、由来データ駆動のオープンデータを活用した推進が、適当だろうってことを出されて、これがですね、実は推奨されたんですね。このことに対して、武雄市もされてございますけども、このことに対してどのように思われるか、答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この山崎耕史さんっていう名前は、総務省から一番聞くんですよ。ですので、やっぱり、まあ私も武雄出身であるし武雄で生活してる者としてはね、やっぱそれはすごい誇らしいことだと思いますね。ですので——これやっぱね、武雄のおもしろいところは、武雄で活躍されてる人っていうのは、武雄で悪口の出るとですよ。だけど——私のことじゃないですよ。ですが、よそでね、よそでやっぱりこう山崎耕史さんだけじゃなくて、まあお名前はあえて上げませんが、いろいろな人の御活躍っていうのは、やっぱり聞くわけですよ。だから、そのこの非対称性っていうかね、そこはおもしろいところだと思います。まあ、いずれにしても誇らしいことだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

いや悪口じゃなくてですね、ほんと、先日横浜行ったんですね。そしたら横浜まちづくり委員会が樋渡市長を呼びたいって（笑い声）という話をされた。というのは、私の親戚、樋渡っていますからね。（発言する者あり）武雄の樋渡は親戚ねって言われた。（笑い声）もう誇らしいことですよ。すみません私、議長、あの歯が1本なくしてですね、発音が悪いんです。すみません——ということなんですね。そしてまた先ほどの、ユニシスのセッションにもですね、ぜひ樋渡市長を呼びたいちゅう人も、かなりおられるそうでした、これつけ加えておきますけれども。これまで、役所の仕事で当然ですけども、紙のやりとりですね。それから契約書、領収書、請求書などをすべて、紐付けしとかんばいかんっていうのは実態ですね。つまり契約書、領収書、請求書、申込書、貸出記録、すべて、紐付けしておかなけ

ればならない。これは、探すのが大変だということですね。探すのが大変。実は、ここに24年11月17日って書いてあります。これも探すのに苦勞をしました。

実は、12月議会で質問したんですけども、行政文書ウェブ公開へ、請求不要誰でも閲覧可能になりますよ、武雄市発想として来年度から25年度からですね、日本フェイスブック学会で樋渡会長の樋渡市長さんが、発表されたということですけども、さらには公開される文書は開示できるものだけ。個人情報など禁止されている文書は省きますよ。これ当たり前ですね。開示する文書はクラウドに保管。ここを探したんですけども、つまり東日本大震災では行政文書が破損した、流出した。そういうことから離れた場所、沖縄——沖縄見に行ったんですけど——そういうとこに、2カ所にですね、置いておくちゅうのが今の発想ですね。ここですけども、開示する文書はクラウドに保管、こいつはいつやったるかっていうことですね、開示するこのクラウドは、いつやったのかということまで調べたんですけども、それは、一生懸命この議事録を探すぐらいしかなかったんですけども。

武雄市議会定例会議事録ですけども、きのうもありよったんですけども、これうちの座敷ですけども、こういっぱい持ってきてですね、広げにやいかんということで、実はこれはこういう状態のまま広げていって、なおかつ、あ、ここあった、ここあった、ということで印をつけてですね、このとこでしたねって線をひけば、24年の11月17日だったかって、議事録でわかるんですよ。これも、そのときの答弁書出てきたんですけども。

しかし、議事録が今電子化されてる。そしたら、どのようにして探すかといえば、まず武雄市のホームページを開く。ホームページの中で、武雄市議会ってあるからここを、この武雄市議会をクリックする。そうすれば武雄市議会っていうことが出てきます。さらに、このとこに定例会、臨時会の日程議事録ってちゅうこと出てきますね。

ではいつまで収録してあるかちゅうことですが、ここですが26年の2月議会、この場合ですね。まで、ここが始めですけども、18年4月から、これまではPDF化されてるんですけども。それでこのとこですが、武雄市議会議事録検索ということで、ここ書くとこあるんですけど、ここに先ほど言いましたクラウド、私の質問ですのでここに黒岩と入れますね。そして、この検索をクリックするんですね。それはグーグルのカスタマイズ。ヤフーでもあるんでしょ。そういうところからですね、クリックしただけで、直ちにこのようにぼんぼんぼんって一発で出るんですね。きのう出なかったんですけども。マフィアが出なかった、これで。だから、ちゃんとした正式な分のとこ、登壇したとこだけしか議事録書きませんのでね。やじなんか出ませんので。そうして開いていきますと、まあ23番黒岩と探し出して、ずっと見ていけばここに印ついとるんですけども、クラウドということで。これ自治体クラウドと書けば、一発で出たんですけども、こういうふうに出たんですけども。わずか1分ですよ。公開する文書はクラウドに保管ってことで、ここを探したんですけども、議事録はPDF化で、検索のスピードが大きく変わった。これ電子化そのものですね。このことについてどのよう

に思われるか、これ通告しておりましたのでぜひともですね、その操作について、操作をしながら説明をしていただきたいと思いますけれども、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

〔23番「すみません。キーワードを言いますけれども、哺乳類。おもちゃ箱いっぱい出てくるけんが、哺乳類でお願いします〕

○宮下つながる部長〔登壇〕

モニターをお願いします。（モニター使用）（発言する者あり）

先ほど、質問の中で出ましたように、これが武雄市のホームページのいわゆるトップ、一番最初になるページであります。この中で、ジャンルがずーっと一番上にございますが、市政情報、これをクリックをしていただくと、市政情報の中にですね、各種計画であるとか、市議会とか、予算とか選挙であるとか、こういうものが入ってますよという形で出てきます。この中でさらに、この市議会というものをクリックしていただきますと、このページ、市議会のデータのページになるということになります。先ほど、議員さんからも説明がありましたように、このページについては合併後の議事録が、データベースとして公開されているということになります。この議事録の下に、議事録検索という表題がついております。この下にクリックしていただきまして、カーソルをここに持ってくると——「哺乳類」ですか——ということで、入れていただきまして、その右のほうに検索というボタンがありますので、これを押すと。しますと、ここに、哺乳類に関する質問のリストが出てきます。これで、アンダーバーが引いてある部分でクリックしていただきまして、その当時の質問の議事録がそのまま出てくるということになります。

右の端に、3つ小っちゃく、これですね。3本入っておりますので、これを開きます。ここにですね、詳細の編集機能というのがあるらしいんですけど。これになるんですかね、検索、これですね。これを押していただきまして、窓が出てきますので先ほどの、哺乳類ということを入れまして、するとこのページの哺乳類という単語がここにありますよ、というところへすぐ飛んでいくという、こういう機能がついております。ということで、まあ検索が非常に速いということができるよう、現在議事録についてはなっております。ということで、検索機能が先ほど紹介がありましたように、大手のソフト会社の、ソフトということを使いまして、市民の利便性向上につながっているというふうに、認識をいたしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、説明いただいたんですけど、私今言ったのはスピードなんですね。スピードと確実性。

これがやっぱり機械化によって、大きく変わるというのを説明していただきかったんですけども、ありがとうございます。

それともう一つ、先ほどですね黒岩って入れんやったですね、哺乳類・黒岩と入れれば牟田議長さんも一緒やったけんがですね、1つ出てくつとですね。数によって絞っていくちゅうことですね。

これ実際の武雄市議会の議事録ですけれども、これ私の質問ですが、浪江町の荻野小学校の子どもたちは、この図のような放射線量の中を歩いた。それからこの図が示すように、先ほどの図、この図あの図その図で出てくるんですよ。今の状態の中ですね、これではわからん。しかし一般質問をしとったということですね、実はここにですね、タグを打っていくちゅう考え方、これTは、タグなんですね。荻野小学校の子どもたちは、この図にタグを打って次のこの図に打って、打っとけば、どういう状態が出るかといいますと、荻野小学校、御存知ですね。荻野小学校の子どもたちは、この図のようなのを歩いていったんですね。つまりここが、飯館村が武雄市と一緒に距離だと言いました。浪江町、小学校はここら辺でもんね、ちょうどね。そして、この図のような、つまりこう縦長に流れているところ行ったという意味ですね、放射線量の中歩いたと、高濃度の放射線量、次はこの図なんです。この図にタグ打っとけば、この図とこれが出てくるんですね。ここが荻野小学校、子どもたちこう歩いて行ったんですよ。150 ミリシーベルトの中、歩いて行ったんですね。この図が示すように行った。だから先ほどの図。先ほどの図っていうのは、どっちかわからんですけども、タグを打っとけばですね、これが出てくるんですね。ここから逃げるのにですよ市長さん、地図見てくださいね、この中を歩いて行ったんですよ、津島支所に。2階の弁当にあって、子どもたちはここで弁当も食べたんですよ。あの、おにぎりも食べたんですよ。しかし、これがわかっとならば市長どっちに逃げるですか。同じ浪江町で海の方に逃げますね、あるいはまた南相馬市に逃げますね。簡単にわかる話をここでしたんですけども、この図あの図でわからないんですね。

もう一つ似たような話が、チェルノブイリ避難比較表。今よくあるのが、これ、この文書ちょっと入れかえますけども、チェルノブイリ避難所というのを、これ利用しましたけども、こうチェックしてリンクできるって書いてある。よくあるんですね。リンクすれば、ぱっと出てくるんですね。これとは少し違うんで、同じタグ打ちでもですね。ということを理解していただきたいと思いますけれども。だから、パネル保存ができる議事録づくり、ぜひとも、これに取り組んでいただきたいと思いますけども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう、電子化の最大の意義は、保存と活用がすごくしやすいということなんですよ。

ですので、例えば、そういった写真であるとかその資料っていうのを、まあタグづけて言うかリンクっていうかは、ちょっと別にしてもね、それはもう行うべきだと思いますね。ただそうなったときに、私は本当にね、紙のこんな分厚いね議事録をね、何十部もつくんなきゃいけないんですよ。いや、つくんなきゃいけないっていうかね、もうそれはもうやめですよ。

だからそう、その費用をかけるぐらいだったら、もうこっちに特化すると。ただし、保存用でどうしてもね必要な場合があるんで、それは例えば図書館なり議会なりに、もう2部ぐらいでいいんじゃないですかね。あとはもうすべからく、あれですよ、もうネットで公開するっていうので、かつ、皆さんが利用しやすいということが、私はできるというふうに思っています。

私、ちょっと間に合わなかったんですけど、iPadで本読んでても、ほとんどの本って、もうリンクが張ってあって、先ほど黒岩幸生議員がおっしゃったように、そのの線に行くと地図とかに、もう飛んでいけるんですよ。だからもう、そうやってきてますので、それがもう世の中の、もう趨勢だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長さん、私、紙の、市長ね、紙の議事録、私もう断っております。議会で。私のはいらんちゅうことですね、つくっておられません私の分は。いりませんからね。

うちの座敷も昔はですよ、わたし勉強部屋で腹いっぱい広がった。今パソコン一つあれば何もなしに済むですね。そう変わっていきますけれども。

先日ですね——これから本題に入りますけれども、佐賀県がテレワーク推進ちゅうことで書いておりました新年度からタブレット1,000台導入。出先でも、庁内システム利用できますよ。場所選ばず仕事が、これはキーワードですよ、覚えとってくださいね。また言いますが、場所を選ばず仕事ができる。つまり行政サービスの向上を目指す。ここ枠つけておりませんが、行政サービス。行政サービスを目指すということなんですね。場所を選ばず仕事ができるということでございますけれども、でも、これイメージです。武雄市ではございません、イメージ図ですね。中身を見てみますと、じゃあ庁内市民サービスはどうなってるのか。庁内御案内、ちゃんとこう書いてあってですね。きれいに書いてあります。それと大きくですね、この階にありますよと書いてあるんですよ。非常にいいことですがけれども、実際ですね、転入・転出届け、出してみてもわかりますけれども、市民の皆さんが、例えば年金問題でありますと健康課に行かんばいかん。生活保護は福祉課、子ども医療は支援課、さらには保育園は未来課、それから課税は税務課というふうに、ずつと行かんばいかん。これ前使いました。さらに、給食の申し込みといえば学校教育課に行かんばいかん。つまり

市民が、市民がたらい回しされよつとですよ、たらい回しされる。そして各課で証明書を取りますけれども、この証明書を持って隣の課に行ったりするのは、おいは無駄だと思うんですね。たらい回しされるという見方なんです。そこでまず1つですけども、行政は市民のためというならば、庁舎内での諸証明のやりとりは不要だと思いますけども、このことに対してどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

不要だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

簡素化ぐらいかなと思って——ありがとうございました。簡素化できないかっていうことでしたけども、思いましたけども、不要になるように、ぜひともですね、していただきたいと思います。よかった。

さらには、各課がありまして、市民は先ほど言ったようにですね、実際健康課行ったり、税務課に行ったり、未来課に行ったり、支援課に行ったりですね、このように実際ちゃんと見れば、回されよつとですよ市民が。市民の皆さんが、各課を回されよつとですよ。これが実態ですよ。つまり市民の皆さんが、例えば支援課に行きます。忙しいですね。一生懸命行きますけれども、いんにゃ未来課も行けて、用事があればやっぱ行かないかん。税務課にも用事があれば行かないかん、健康課にも行かんばいかん。あるいは福祉課にも行かなければならない。

そういうことではなくですね、市長、そういうことではなく、こここのところを、すべて電子化してしまう。電子政府なんです。そうすればですね、市民の皆さんが窓口に来たときに、黙って座るだけでいい顔ですね。いい顔です。この方がですよ、ここをみんなですね、電子化することによって、すべては先ほど言いました、場所を選ばず仕事ができるから、窓口で仕事ができるんですよ。東京から沖縄からでくっぎ、我がうちができんはずなかですね。そうすれば、支援課、未来課、税務課、健康課、福祉課がすべてここで処理できますので、おじいちゃんは黙って座っとくだけで、これがワンストップ行政だと。これが総合窓口じゃないかというのが、3年間言い続けてきたこととございますけれども。繰り返しますけども、市民の皆さんが、真ん中に来ます。あえて庁舎を木に——木をつくったんですけども、こういう状態で、こういうことができないかと。ああいうおじいちゃんが座ってですね、こういうことができないかと。庁舎が回れと。各課が回ってほしか、という発想をぜひともしてほしい。そのためどうするか。木の根っこのほうからですね、入ったらどうかつちゅういうこ

となんです。つまり葉っぱから入るけんが回らんばばってんが、木の根元から——前、市長さんからって言ったですね、俺ね。ここから行けばちゃんと総合窓口になり、各課できるんじゃないかって発想ですけども、これがワンストップ行政だと。

さらに、総合窓口、ワンストップ行政、こういろいろ言いますけれども、すべては住民の要望が窓口に来ていくスタイルが、先ほど言いましたが、係、係、係、係いろいろ行きますね。その後に課長さんところに行く、さらには部長さんところに行く。つまりこういう状態、こういう状態で行ってるんですね、現実。こういう状態。

こうではなくて、こがん行ったらどがんやろかって。部長、課長、係長、係員ですね。これ発想ですよ。ということは、部長さんところ行くと課長さん、課長さんこうなるですね。これを、このとこですけれども、電子化すればすべてが、部長さんに行く。そうすれば、これが総合窓口であるし、今、言ってたこの3つのことが解決しますよという発想。発想がなければできませんのでね。まさに、たらい回しされてる市民と思ってください。行政は市民のために、どのように思われるか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあ、あれでもんね、ちょっとこれ、うちの市役所じゃないんですけども、あれなんですよね、お父さんがこう、亡くなられたときにね、その息子さんが、ある市役所に来たときに、もう全くこれね、同じようなたらい回しがあって、なんか国保のところに行ったときにね、なんかさっき、あそこでなんか市民課で、証明書持ってきてくれてって言われて、おかしいじゃないかということで、しかもその間すごいやっぱ、すごい忙しいじゃないですか、御準備とかね、それでもう40分も1時間もとられてしまったと。もう二度とこの市役所には行かんぞと、もう税金も払いたくないぞっていうのが、これ、たまたま私の知り合いだったんで、話来たんですね。

これ、武雄市役所の場合は、たらい回しをせざるを得ないですよ、今のシステムだと。でも、ちゃんとこう、ついて行くっていうふうにはしてるんです。それでもやっぱ限界があるんですよ。ですので、これだけ、もう、先ほど黒岩議員さんがおっしゃったように、もう電子化が進められてきますので、もう可能な限り一本化はできます。一本化できて、かつ、やっぱりですね、もう今認証もやっぱ結構できるんですよ。もうばって来た瞬間に、あっ、この人、このこういう姿だったら、あっ、これは、子育ての方ねと、いったりとか、これはどっちかっつたら、引っ越しをされてきたんだなというので、もう認証のところまでもう行きつつあるんですよ。だから、その電子化っていうのは、もういわゆる本当の意味の3D化なんです。もう、全体を認識できるって。だからこれ、個人情報をうんとかじゃないんですよ。ですので、そこによって大分、市民の待ち時間も減るといえることになると思

ます。もっていく先は、僕はアップルストアだと思ってるんです。あの快適な空間でレジすらない。もう、本当に来た顧客に対して従業員の人が、そこに張りついて、そこで、そこにいらっしゃるところで、もう全部終わってしまうと。支払いまでそこで、立ったまま終わってしまうというところですので、図書館のような居心地のいい空間で、待っていることが苦痛でないっていうこと。そしておそらくですね、例えば黒岩議員さんが、いろんな手続きで来られたとするじゃないですか、新しい武雄市役所に。そしたら、ある職員がぼって飛んで行きますよ、きょうの御用向きなんですかって言ったときに、いやかくかくしかじかですって言ったら、あっ、これだったら15分待つてほしいというので、その間に全部済ませるということが、これからの行政の僕は主流になっていくと思いますので、ぜひそれにチャレンジしていきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ありがとうございます。

先ほど言いましたように、議事録検索だけでもわずか1分でできるように変わったんですね。これ電子化じゃなければできない話ですので、お願いいたします。

実は、先ほど言いましたように——色がまたよかでしょ——私29歳、これ私のことです。若さ、フレッシュ、行動力ということで出ました。ちょうどそのときはですね、松本町長さんもですね、市長さんみたいな、ちょうどその年代ですよ。若かったですよ。今も若いんですけどね(笑い声)、こういうことですね、出たんですよ。色も変えてみました——そしてですね、やはり欲しいのは、ここなんですね、議会に新風。やはり若い人たちの頭。私もですね29でなったときには、先ほど言った3人の重鎮がもうえすかごとしておんさった。しかしその中の山口議員さんがね「おーいおまえ、おいも29ぞって、わいも29ならがんばるぎね、ちゃんとなっていくけん俺が教えるけん、こい」て言われて、それで今があるんですよ。だからそういう引き継ぎができるのを皆さん、若いですよっていうことを訴えたいんですけども。

私がですね、初心を忘れず議員として目指してきたことは、市民のための政治ですね。住民のための政治なんですね。古川知事さんがこの前、ワンストップ行政って話をなされました。これ県民の皆さんのための県庁であるし、たらい回しをされない行政だと言われたと思うんですよ。そして総合窓口の必要性を言われたと、それワンストップ行政だと思いますけれども。私もですね、町民の皆さんのため、最も必要なものは何かと言うてきたことは、やはり総合窓口なんですね。これは、私が町民の皆さんが役場に来られたら、受付だけで済むように、すべてができるたらい回さない行政。つまり、総合窓口の必要性を提言したんです、20年前。そしたら、当時の松本町長さんは、「そがん気の利いたとの職員にはおらん」って

言われて、これ見事にですね、見事に握りよったんですよ。しかし、方法はなく机上の空論になった。

そういう中でですね、3年前ですけれども、それを解決したのがパッセルなんですよ。私の頭の中を解決したのはパッセルです。それを解決したのがパッセル。つまり、二次元の世界の中で、3D検索するのがパッセルなんだと。二次元の世界の中で、3D検索するのがパッセルですよ。そしたらパッセルって何やと。パッセルとはデイソフトウェアの、代表取締役の山崎耕史社長がつくられたもの。つまり、日本、アメリカで取得済みの特許なんですよ、これは。ほかに、今ですよ、いろんなことで特許ある。システムとかね、特許出願されておりますけれども。これはアメリカですよ。これ日本。本を読んでみますと、社内の案内ですけれども、フローチャートベースでマクロ計算を行い、これわからんとですよ。それらのフローチャートを、相互接続できるシステムですよ、会社の案内です。さらには、これ総合システム。ここだけ、少しわかったですよ、さらには、パーソナルユースソフトの——そのまま書いただけですよ——垣根を取り払った新しいビジネス基盤の創出を可能とする、山崎耕史社長が開発したソフトですよ、書いてあるんですよ。わからん。市長はわかんなさあわからんばってね。これ意味わからんとですよ。

まず、謝罪しとかんばいかんところは、特許ですからね。まず、謝罪しておきますけれども、私はこれまで利用する、許すと言っているのは、ここで利用しているというのは、行政にこの一部を利用するちゅうことですからね。パッセルが持つ無限大の可能性の中ですよ、ごくごくわずかな一部の部分を使って、言ってるちゅうことで、私が言っているのはすべてパッセルではないということだけはですよ、やっぱこのユーストリームで流れてますのでね、謝罪しておきますけれども。

これは山崎先生が2012年、IT委員会に書かれたものですよ、行政のためのオートタグシステムということで、講演をしていただきました。これ山崎先生がつくったやつですよ。やっぱりおいと違くて上手ですよ。紙をすべて高速回線に投げ込む、絶対必要なことはPDF化だと。PDF化してすべてを投げ込みますよ。そうすればオートタグがすべてをインデックスしますよ。つまり市役所の仕事はそのまますることによって、オートタグを打っていくと、そうすることがインデックスを育てていくんですよ。

これ、インデックスというのは御承知だと思いますけれども、目的、情報を探すための索引・指標になっていくのがインデックスですよ。つまりみんなでオートタグを——仕事をするのが、ここクモの巣、ウェブですよ。みんなでオートタグを育てることが、つまり、その人その人のセットを、仕様書などをつくっていきますよって意味なんですよ。だから、インデックスの木をみんなでそれを、おのおのつくったのが、係、係つくっておれば、それを自由に使うことができますよ。つまり、ここにわざわざクモ描いてあるのは、ずっとウェブ張って、クモの巣をずーっとつくっていくんですよ、クモの巣であればどこでもいけるっていう、ウ

エブを張っていくちゅう意味のクモの巣なんですね。そうすれば、いっちょいっちょ探さじよか、すぐ出る。さっきの議事録、聞かない。聞かないでもちゃんとマニュアルがインデックスに載っている。あるいは、要するに、訪ねていく必要もない。速い、ノーミス。一番役所で大事なのノーミスですよ。水道部とは言わんばってんですね。しょっちゅう、やっぱり書きかえのある、差しかえのある、差しかえはするぎいかんですよ、今からね。間違ごうたら、ここで謝る。謝って訂正する。そのほうが本人のためにもなります。そういうミスを、起こさないような機械だからね。数字を重ねるだけで間違いを発見できますので。電子化すれば、こういうことはなくなりますということを、習ったんですね。

パッセルが、ではどのように使われているかといいますと、医療、製造業、研究機関、サービス業、医療系、いろんなどこで使われてるんですね。クリティカルパスシステム、これもわからんけん辞書引いたぎ、治療や看護の手順を標準化し、診療の効率化や軽質化、コスト削減を図る手法ですよっていうことで使われております。あるいはまた、部門別管理系会計システムですね。これは、ユニシスさんと共同って、ユニシスさんのほうから出されてるんですね。2010年、佐賀大学医学部と一緒に発表されているんですね。使用されております。それからここ大事なことですけども、数千万の初期投資がかからず、月額数万円と安いですよ。つまりなんちゅうか、総——ランコンピュータですかね、パーソナル。大きなコンピュータでなくても、大事な一部を抜き取ってですね、そこをシステム化することができるし、それに付帯していくちゅうのがパッセルの特徴ですね。あるいは、電子カルテシステム。これも、だから今言いましたように、膨大なシステムがあるですね。だから、大型スーパーコンピュータであればできるでしょうけれども、そうでなくても、ここら辺の町医者、お医者さんの小さな人でも簡単に使うことができます。その部分だけをですね、シンプルなシステムとして、構築することができる。それで、必要であればそれに付帯していくちゅうことができるんですね。製造業向けのシステムとして、固定化しない、やわらかいシステムということでございますけれども、パッセルというのは、必要な部分だけをシステム化。大きい中でですね必要な部分だけをシステム化したり、必要に応じて、付帯システムが追加できるちゅうことなんですね。シンプルなシステムとして、さらに必要な部分だけをシステム化する。それに必要に応じて、システムを追加するというシステムがパッセルなんですね。必要な部分をシンプルに、さらにそれに付帯して、これこそまさに、行政改革には不可欠だと思いますけども、どのようにお考えか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ基本的な方向性は僕も同じなんですけれども、あとは、その実際に使っていく職員がね、これ使ってこれ便利だと。あるいは、やっぱり前よりも楽だと、というのを日常的に

体感的にしない限り、僕はこれ広がらないと思いますので、一旦ちゃんと使ってみるっていうこと、大事だと思うんですね。

ただうちの職員も、そりゃ、いろんな例えばオフィス系であったりとか、iOSとかであったりとか、すごいやっぱ目が肥えているんですよ。ですので、それを上回る使いやすさがない限り、僕は広まらないと思います。いずれにしても、ちょっと僕が一回使ってみます。僕が使ってダメだったら、もう広がらないということだと思いますので、ぜひ、そういう形かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

まあ、機械打ち壊し運動じゃないですけどね。何かをするときは、必ずそういう動きがあるんですよ。おもしろい話、まあ私たち年代知ってると思いますけども、計算機が出たときにですね、駅の切符を買うときに、どういう現象があったか市長さん知らんでしょ。切符買いや行くぎですね、計算機でいくらと出して、横にそろばん置いとんさったですよ。計算機をそろばんでしょんさった。今ごろ、そがん見るとおらんですね。やっぱそういうもんなんですよ。だから今、市長さんおっしゃるように、誰でも使えるシステムでなければ、もちろん誰も使いませんので、それは心配ないと思うんですね。はい。

子ども手当。これも何回も言いましたけれども、どういうことをしているかといいますと、仕事ですけども、全市民の中が選別。こういう順序でされているんですね。少し違うかわかりませんが、該当する子どもがいる家庭を選んだ。所得制限をかけられるんですね。さらには、措置費を乗じて各世帯支給額。これが大体の仕事でしょ。

それで、こういう状態でですね、実は、選別加算をしていってるんですよ、機械的には。そこでこれ最初に、3年ぐらい前に山崎先生に話したんで——じゃ、穴あきソフトつくるぎよかたいねって言ったのが子ども手当ですけども。仕事の手順書をつくる。そしたら、世帯主、家族構成、所得。これが把握できれば、自動的に機械で総額が出てきますよっていうこと。これが選別、加算をさせることですね。これが行政ナビだという言葉を使っております。まだ世に出ておりません。カーナビとは違ううちゅうですね。これよく出てますね。ではカーナビと行政ナビはどこが違うか。カーナビというのは目的地を決めて、現在地へ来るだけですね。つまりこれは静脈と一緒になんです。目的地から現在地へ来るというシステムですね。じゃあ行政ナビでなんやと。つまり動脈と一緒に、心臓から指先へ行くと。一緒やろうもんと思んさあかわからんばってん、少し違うのはですね、ずっと血液は選別しながら出ていくんだと。目標に向かっていくんだということの意味なんですよ。選別して未来に向かっていくんだと。つまり、指先から心臓でなくて、心臓から指先へ向かっていく。これが行政ナビだということですね。

そう考えていきますと、このカーナビはいらんですね。こういう行政ナビをつくって、選別、進化させることによって、この穴空きシートが埋まっていきますよ、マイソフトができます。付帯することもできますし、さらには、仕事の一部を支援するソフト。仕事の一部を代わってもらっちゃう考え方なければいかんですね。

全体的に変わりますけども、先ほどの計算機と一緒になんです。一つずつ変えていくという発想ですね。それがデイソフトであるということですね。

これも、24年の3月議会でここでお話しましたが、家族構成、所得把握ができればということですけども、ここを3D表示するっちゃう話でしたね。

三次元というのは——まず一次元というのは線ですね。前と後ろから敵が攻めてくる。それを守ればいい。二次元は面なんです。今度は横も守らなければいけません。三次元は立体ですね。上から下まで守らなければ。これが3Dになります。三次元ですね。そうすれば三次元検索というのは立体、つまり縦横高さ、あらゆる方向から敵が攻めてくるから守らなければならない。ということは、あらゆる方向から、検索はできるっちゃうことなんですね。

紙の世界で3D検索。紙の世界というのは、物ですから三次元みたいに見えますけど、実際、二次元の世界ですね。二次元の世界で3D検索をするということでございますけども、これも立体的計算をする。3×3×2、サザンガ9、クニ18となるのを立体的に計算するっちゃうことですけども。

これ、25年6月、書いたんですが、縦横——そうですね、XYZ軸で計算すればどうなるかといいますと、サザンガ9が前に出てきますね。立体的に計算ですね。ここの後ろの、前から2番目のところの、上から3番目に、ここに、コマとして、18と出る。18はここにあるんですね。XYZ軸ですから。そうすればこれが、18になりますよ。大きく書きましたけどサザンガ9、クニ、ここに18がきますよ、っちゃうことをここで説明したんですね。これを3D表示すれば、平面の中に表示すればですね、ここに9でなくて18がくるんですね。つまり、ここの計算表は二次元の世界ですけども、サザンガ9、クニの、ここのところに18が出る。つまり整理されたものが出てくるんですね。選別されたものがここに出てくるっちゃうことになるんです。そうすれば、家族構成の場合、家族構成がわかれば、ここで機械を入れてやれば、年齢の選択ができるんですね。

じゃあ、所得を把握できれば所得制限ができる、それに、措置費を付加して総額を出していく。これが行政ナビですね。これをしてしまえば、地域別、あるいは、これも簡単に五十音順に分けれますね。地域別、五十音別というのは、はがき出すとき——議長さんそれするんですよ。すぐ簡単に変わるでしょ、あれと一緒にですね。それからプリンターをすれば通知書が各家庭に届くっちゃうことになるんですね。今までこれ、手仕事してきたんですから、少しずつ変えていけばできないはずはないんですね。一遍につくってしまおうと思ったら間違うけど、これできないはずはない。一部、代わってやるっちゃうことなんですよ。

それと、オープンデータとパッセル——ちょっと時間もあんまりないので——オープンデータとパッセルの関係っちゅうことで、山崎先生からIT委員会で説明していただいたものですが、山崎先生はこうおっしゃった。鍋物をですね、作りたいときどがんですかいと。まず肉ば、肉屋さん行くよ、野菜は野菜屋さんに行く、そして魚は魚屋さんに行くんですよ。しかしスーパーマーケットに行けば、かごを持って行くですよ。かごを持って、鍋物と考えたときには、これが買い物かごに肉を入れるですよ。野菜を入れますよね。魚を入れますよねと。これをですねオートタグで肉、野菜そして魚というように、買い物セットとして、システムに記憶させるんですよ。そうすれば今度は、鍋物セットっちゅうことで、これを持って行けばですね、持って行っただけでオートタグで、システムが記憶されておりますので、持って行っただけで、次は、肉、野菜というふうによ、オートタグによってこれが探すことができるっちゅうことなんですよ。こういう発想ですよ。

さらに、いや、このシステムを使って、私は豆腐を欲しかった、ということであればこのシステムに豆腐を付帯させることができるんですよ。あるいは、またこれがレシピ——この前言われておりましたけども、料理の本とした場合は、これにはですね、いろんな手法が違いますので、どがん歴史のあつとか、誰がつくったとかと、あの人の作ったとは食べませんばいとか、いろいろあるんですよ、そういうものの、そういう由来データもこれにつけ加えることができるっちゅうことになるんですよ。これがシンプルなシステムに付帯していくっちゅう発想ですけども。繰り返しますが、買い物セットということで、こういうふうには直ちに動きますね。これを、スーパーでなく、ここに基本情報を入れていくんですよ。いろんな情報を入れますけども、そうすれば記憶されたシステム、これを特許出願中のデイシステムをここに入れる。買い物セットということは、頭脳ですのでここをパッセルを使う、この2つを組み合わせる発想ですよ。つまり、パッセルがエンジンならば、デイシステムというのは車のボディっちゅうんですか、そういう状態なんですよ。だからこのパッセルに、もちろんボディのかわりに、例えば車輪のかわりにキャタピラをつけてですね、砲台つけば、それは戦車になります。このデイシステムに翼をつけてやれば、それは飛行機になるんですよ。そういうふうには、この基本情報によって変わっていくんだということですよ。これが行政ナビなんですよ。

これをつくることによって、このシステムを利用すればすべての仕事に対応できることになるんですよ。そこで、転入届けや転出届け——何かデモをつくりたいと思いますけども、課を特化してね、ぜひともデモを、作製をしてほしい。これに、一番力を貸してほしい。

というのは総合窓口——私、武雄市からこれを使いたいんですよ。よその自治体も注目しております。しかしこれは武雄市でなかったら、私、意味がなかとですよ。今のシステムを誰かが使うことができるわけですから、それは武雄市から使うと。そして、武雄市から総合窓口つくろうというのは、私の恩返しでもございますので。

行政はですね——住民は行政の主人公ですね。そのため、市長がよく言われるように市民がよくなるためにはですね、タブーを恐れない、という姿勢が大事だと思いますけども総合窓口は——市長ね、ぜひとも、市からということでデモをつくると。例えば、死亡届で——死亡届は縁起の悪かですかね。死亡届か何か作ってですね、できるちゅう実証をですね、ぜひとも、発明、仕事はできますけども、実務ができませんので、力を貸していただきたいと思っておりますけどもいかがでしょうか。答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、タブーないですからね。全然僕はタブーもないし、やっぱり市民にとって、一番いいものを目指してきたっていうのは、この8年でありますので、今ね、370 ちょっとの、今、マニュアルを作成してるんですよ。それだけこういう小さな自治体っていうか、市役所でもね、やっぱりそういうことがバラバラで行われてきたんで、そのマニュアルを今、見直しをしています。

その中でやっぱ、これ成功体験が、やっぱいるですもんね。そやけん、そのデモっていうのは、その中のいくつかを抽出をして、デモっていうかね、パイロットで。これはぜひしていきたいと思っております。そのときに、ぜひね、これ、IT特別委員会にもまた入ってもらって、ある程度オープンの中でやっていくことが必要だと思っておりますし、市民の御協力も、これまた必要だと思っておりますので、これはぜひ——ちょっと私も、もう賞味期限がもうそろそろ切れますので、ここでお約束するちゅうのは、ちょっとおかしいのかもしれませんが、その必要性は強く認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ぜひですね、総合窓口は武雄からということでお願いしたいと思っております。

次にですね、世界一優秀な新日鉄ガス化溶融炉の運転について少しばかり問題点を質問しておきたいと思っております。

考え方の変化が、今世界各地で起こっておりますけど、昔はごみを焼却捨てる、焼いて捨てるですね。こういう話でございました。

先日、広域圏議会でもありましたけども、ごみを焼却する、処理するちゅう考え方から、今日では発電のための資源。ごみじゃないんですよ。資源なんですよ。だから、よその国に買いに行くんですよ。ごみを買いに行くばかはいませんからね。ごみでなくて資源だと。

何の資源かと言いますと、発電ということはボイラーを沸かして、それによってタービンを回して、電気エネルギーとしてごみから回収するちゅう発想ですね。電気エネルギーとし

て回収をします。これが考え方の変換。いずれ日本もなります。もったいないですからね。

これは新日鉄のガス化溶融炉でございます。可燃ごみ、不燃ごみ、いろんなごみをここから投入をいたします。そうしますと、乾燥・予熱帯。これが300度から400度でございます。さらには熱分解ガス化帯ということでこれが、1,000度ですかね。1,000度ですね。それから燃焼帯。これが1,000度から1,700度、ここですね。普通ここまでなんです。燃やすとか、焼くとか、ここでいろんなダイオキシンなり、いろんな問題が出るんですね。1,700度も高いほうですよ、大体1,300度ぐらい。これに、溶融帯がついてるんですね。約1,700とか1,800度になる、というものなんですね。ここがですね。

これによって、大きく変わってくるのが、まずごみの排出・収集の分別が、簡素化されます。さらには焼却灰の溶融化が一番安い、直接溶かすんですからね。灰溶融なんかは1回燃やして、その灰を溶かすということで高いですけども、直融——直接溶融すれば一番安いということなんですね。それから環境に優しい、ダイオキシンを出さんということですよ。ほとんど出しません。さらには資源エネルギーの高度利用。これ1,800度でスラブをつくりますので、全く違う。以前ここで、私が持ってきたスラブと全く違うのができるんですね。

これは建設常任委員会で姫路市のほうに行って参りました、エコパークあぼしですね。ここで聞いた——受けた資料でございますけれども、ここは200トン以上でございますので、法規制が0.1ナノグラムですね。10億分の1グラムですね。そして施設の保証値、これが半分、0.05ナノグラムですよ。さらに、測定値が出されとったんですね。

これダイオキシンというのは、繰り返しますけども、自然界に存在しないんですね。あのベトちゃん、ドクちゃんで見られますように遺伝子に傷をつける。そしてこれは人類がつくり出した最悪の猛毒だと言われております。だから、規制が厳しいんですね。10億分の1グラム、1メートル真四角に10億分の1グラムってわからんですよね。それが、これも天文学数字、ここです、猛毒ですね。0.000034ナノグラムまで落とすことができてたんですね。これは姫路の話です。

こういうことに対して、やはり住民の皆さんたちは、敏感ですよ、敏感。だからこれ22年8月24日ですけど、これ以前もここで紹介しました。松浦地区最終処分場に関する陳情書ちゅうのが22年の8月24日に出されました。それは厚生省は平成8年に焼却残渣の無害化と、溶融化及び溶融固形化をしなければなりませんよと決めたんですね。まあ18年に例外をつくったんですけども、とにかく溶融——完全安心のためにつくった。それはスラグ化が最適だと言ったんですね。

そういうのを受けて、地権者の方ですけども、私たち地権者、地権者の方がですね、ガラス質の溶融スラグにしてほしいっていう陳情書を出されたんですよ。このときの事務局の対応ですけども、「各担当課長様」って書いて、22年の8月25日——直ちにですよ、どれだけ検討されたか当時市長は知らないと言われてましたけども、おそらくね、相談しないまま、

真っすぐ事務局出したと思うんですけれども、当時の事務局は、こういうのはね、受け付けて言われたんですね。受け付けん。しかし陳情者から言われて、話し合いもせずにはですね、これ中開ければ人権侵害のことまで書いてあるんですよ。あえて先に消しましたけどね。そういう中で、もうこれでは言うこと聞かんと直ちに出された。しかし、土地が取得できなければ——地権者ですよ。土地が取得できなければ建設はできなかったんですね。土地が取得できなければ建設だってできないって、だれも感じないやっつたろうかと思うんですよ。そのときに10月に事務局長で行かれた、故伊藤事務局長がですね、陳情者に会って謝罪されたんですよ。なんとかつくらせてくれって。あれがなかったら、今のごみ処理場はできてなかった。

というのは私もついて——伊藤さんから言われて行ったんですがね。ついて行きました。話をしました。そういうことやなかけんが、俺が今度来るけんが、ぜひ、私を信用して、工事をされてくれんかということで、今進んでいるわけですよ。事務局長に会って陳情された。そして今はですね、事務局も頑張っただけでこられてきているんですね。

これは、吉川議員が質問されたんですけど、給食センターの話ですね。いずれ、なんですか、今よりも競争入札になります。当然しなければいけませんので。そのときにですね給食センターと同じく、競争入札をしたら、安くたたいたとは、スタッフを——給料を下げたと。これじゃ意味がなかわけですよ。680円ですよ時給。そが予算ばうちでは組まんはずですよ。しかし、あなたたちが組んだ予算をですね、入札で下げて取るためには、ここを下げてくつとですよ。市長これじゃ意味なかですもんね。だから入札のときはですね——いや、もちろん、どうですか。今の杵藤クリーンセンターの皆さんたちはね、また移らんばけん、むしろ賃金ば上げてやろうって、そういう気持ちの温かさ、ほしかですよ。

しかし、入札かけたらですね、議会の通りやすかったら、下げるぎ、下げさえすればよかけんね、ってならないようにですね、私も賞味期限切れますので、ぜひともここら辺とこはですね、極めていただきたいと思います。

それから——このとき、井戸水を飲むときには、井戸を掘った人の苦労を思い出せて。ですね。ですね。今おっしゃるようにね。やっぱり、あの、いま谷口議員さんが、ほんなごと言んさいたですね。やっぱり選挙前の、今の苦しみを思ってですね。(笑い声) 選挙に上がった皆さん、市民のために頑張ってください。

手厚い地元対策が必要なんですね。次は——もう答弁求めません。お願いしますね。市長さん上がったらね、先ほどの、お願いしますね。上がった——いや、当選されたら、すみません。当選されたら、お願いします。道路改良の考え方、トップの考えが変われば改良が進むということで提言をしていきたいと思っておりますけども。

その前にですね。これは国道34号線。掛橋入り口ですね。東島呉服店さん、福田菓子屋さん、さらには杵島ホンダ商会さんがあって、この部分ですけども、この部分は市長のね、

力でやっと、ここが改良できるようになったんですね。ここのとこが市長の力でですね、本当、何十年できんやっただですよ。掛橋もね、どがんでん喜んどらす。ここは広がった。大変喜んでいます。しかしですね、いっこうにして進まん。その後、ね、部長さんね。どげんなとととやという話がございますので、その進捗状況についてお伺いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

モニターをお願いします。（モニター使用）（発言する者あり）

先ほど、議員さんがおっしゃられましたとおりに、今この、北方町、木之元東交差点というところの、入り口の部分のところですけども。この部分につきましては、狭小で自動車がたん信号待ちすると、国道から入れないというふうな実態がありまして、また歩行者も、まあ家の軒下を歩いて、通学をしている——歩行者も軒下を歩いているというふうな状況で、非常に危険な交差点であったためにですね、局部的な拡幅を行うというふうなことで、平成25年度に、今、測量の調査を実施しておりまして、まあ、補償の交渉もしておりまして、局部的に——地権者からは用地あるいは補償の内諾をいただいております。それで、契約が進めば、平成26年度で工事に入る予定としております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、私が言っているのはですね。せっかく、こう、機が熟しているっちゅうんですかね。市長さんが行って、わざわざ行ってもらってですね。それで何にもできなかったのができた。これは直ちにしなければですね。まあ、気が変わることはありませんけれども。スピード——まあ、どこでも忙しいんでしょうけど。スピードアップすることがですね、より、住民の皆さん方が安心するのもございますし、怪我も少のうございますので。まあ、最後ですけどもね。擁護しときますけど、ぜひともですね。あんまり、なごうかかりようろうもんというのがですね。私の率直な意見でございます。

これは、これ前——今度、さぼって、前のを使いますけども、国道34号線のバイパスがですね、大きく進展をして、今、できよるですね。これもですね。実は樋渡市長の力でですね、大きく変わったんですね。

これは古賀先生。あんまり偉かけん、こっちから後光が差しようですね。（笑い声）これ逆光って言うぎいかんですよ。これしかなかつたとぼってんですね。後光の差しよつとですよ。

これもですね、じっくり、じっくり考えてほしいのが、市長さんね。北方町は一生懸命はあっち、こっち行った。平成2年の大水害から20年間できなかったんですね。どうしても

できないということで、どうしようかちゅう中で、市長さんがですね。11月12日だったと思いますけども、古賀誠先生に会わせていただいてですね。私が陳情することができた。私はついについて行ったと思った、あの時。しかし市長は私のために連れて行ってきて、古賀さん呼んでくれたんですよね。そして話をして「わかった」と言っていたいたんですね。その後ですね、呼ばれて、北方は平成2年から反対しようやっか、これ怒られているときですよ。いや、それ違います、と。あの大水害は、六角川の外水が流れてきて、ずっと話を。じゃあ、国土交通省が悪い。「わかった」って直ちに電話をかけてですね、行ってこいって言われたのが、このときなんですね。

あのときの喜びはですね、市長ね。市長も嬉しかったかわからんけども、住民としては、特に私はこのバイパスしてきてきましたので、本当に涙の出るごと嬉しかったですもんね。だからトップが動けば変わるちゅうことをね、ぜひとも今後も覚えていてほしいと思いますね。

これも、市長さんがよく言う、朝日第2保育所行くときから「こがんとった」って言んさあばってんが、ここも非常に、誰でも困ってた。しかし、誰が手をつけても、何代も市長さんが代わってもできんやっか。しかし、これもトップが行って、市長が行って、何回でも行って、現実的には、先に見えるごとなったんですよね。非常に、黒尾の方もですね、苦勞の甲斐があったんでしょうね。喜んでおられます。それからここもですね、中野の道路ですけれども、この淵上工務店さんの前ですけど、これもわずかなところですけど、離合もできないと言われる状況の中で、なかなかこれもできそうでできなかったところなんですよ。これは森部長ね。あなた率先して動いてもろうてできたんですよね。まあ掛橋のほうはできとらんばってんが。ここですね、このところですね、できました。

それからもう一つ。これもですね、中野の公民館に行くところですね。これも何十年もできなかつたんですよ。この向こう側に私の50年来のつき合いの中原君て、中原幸信君という人がおりますが、非常に困とった。しかし、中原さんと私と市長と一体となってですね。三位一体で取り組んだんですよ。何十年もできなかつたのが、今は、広がったんですよ。できた。できない道路ができた。これが実態ですよ。

だから、トップの考え方が変われば、改良が進むということをやぜひとも——まあ、再選されましようけども、これを覚えとってほしい。部下任せじゃなくてですね。ぜひともお願いしたいと思います。

これは、一般質問を向こうから見た状態ですけども、ここは、浦郷部長さんやっかごたあですね。おいよか頭のはげとらすごたあばってん。

本当に市長さんね、8年間ありがとうございました。お礼を申し上げたいと思います。

アップしたらやっぱり老けとうばい。(笑い声) 65歳わっかちゅうばってん、やっぱ、29歳から見たら——きのうもね、上田議員と話よつたばってん、やっぱり29歳から見れば、も

うオジンばいて言われました。やっぱり、65は定年だろうと思います。それでですね、本当皆さん方にも、議員の皆さん方にも、執行部の皆さん方にですね、感謝を申し上げたいと思うんですね。それで俗に言うじゃなかですか。なんて——立つ鳥——なんちゅうんですかね。（「あとを濁さず」と呼ぶ者あり）跡を濁さずですね。石橋さんありがとうございます。

〔9番「はい」〕

立つ鳥（笑い声）、跡を濁さず感謝をですね、申し上げたいと思うんですね。それから、本当、39年になります。いろんな人たちにですね、お世話になったしですね。心からご支持、ご支援ありがとうございましたっちゅうことで、心からのお礼を申し上げたいと。カメラに向かって言ったら早い話ですけどね。（笑い声）これもよかですね。

それから、あと少し時間あるですかね。それから、皆さんもですね、今度改選される方。1番から26番議員さんまでですね。やっぱり現職は強くあらんばいかんですよ、また強かと思しますので、ぜひとも再選していただいてですね。武雄市のため、頑張っていたきたいと思えます。市長さん、あと1分ありますので、私に対して何かあれば、さっきのこと含めてお願いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

最初、私は黒岩議員さんとは真っ向敵やったですもんね。

しかし、あのね、やっぱり病院の民間移譲は黒岩幸生なくしてはできんやったというふうには、本当に思っています。そして黒岩さんは——僕は伊藤さんとも仲が悪かったですもんね、最初。しかし伊藤さんを引き合わせたのも黒岩さん。あるいは、山口承則さんておんさですもんね。この人に引き合わせたのも黒岩さん。ですので、私は本当にね、なんて言ったらいいですかね。まあ、人間的——まあ尊敬はしてますけれども、それ以上にこの武雄市にとってね、特にこの8年間で、よちよち歩きやったときに、新武雄病院も含めて図書館も、感謝の言葉以外ないですね。それでもう、長くなりますけども、ほんとにあのね、これからもね、私の矢となり盾となり、残り人生あと50年ぐらいあると思えますので頑張ってください。以上です。ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

どうもありがとうございました。これで終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。